



## 部会だより

### コロイドおよび 界面化学部会

## Pacifichem 2020 シンポジウム

### 「Advances in Polymer-Functionalized Soft Interfaces」へのお誘い

#### はじめに

2020年12月15日(火)～20日(日)にハワイのホノルルでPacifichem 2020が開催されます。大会は、ホスト学会の日本をはじめとして、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、中国の7学会の主催で行われます。またPacifichem 2020は12に分類されたTopic Areaに属する複数のシンポジウムから構成されています。前回2015年のPacifichem 2015では334のシンポジウムが開催されました。今回のPacifichem 2020でコロイドおよび界面化学部会に深く関係するシンポジウムとして、「Advances in Polymer-Functionalized Soft Interfaces」を開催する運びとなりました。口頭およびポスター発表の両方を行います。なお、Pacifichem 2020での講演発表申込の受付期間は2020年1月～3月です。

#### 開催内容

このシンポジウムでは、主にソフト界面を扱います。世の中のどのような場所にも、界面は存在します。例えば、生体・組織から細胞までの生物学的なシステム、エマルジョン、泡、液体、粉末など、あらゆる場所に界面があります。バルクに関する物理・化学的特性は、これまで非常に活発に研究されてきました。しかし界面にフォーカスすると、バルク

の特性だけでは説明できない、様々な現象が観測されます。バルクとしての物性に比べて界面では、そこに存在する官能基や、界面自体のテクスチャが、化学的・物理的特性に大きな影響を与えます。近年、表面開始制御ラジカル重合法や、クリックケミストリーなどの合成技術の目覚ましい進歩に伴い、正確に構造の制御された界面を作製できるようになってきました。上記のような合成技術を用いることで、ソフト界面への機能性官能基の導入や、その変換も容易に行えます。実用的観点では、生体と接触する医療機器の界面制御は大変重要な課題です。

このシンポジウムでは、ポリマー、コロイド、界面活性剤、エマルジョン、多孔質体、薄膜、液晶、ゲル、生体膜、生体材料などのソフト界面に関する研究にフォーカスします。ソフト界面に関する最新情報を集積して界面科学の知識を広げるとともに、新しいアイデアを生み出すことを目的とします。このシンポジウムでは、ソフト界面に関する以下の研究発表の申し込みを歓迎します。

1. ソフト界面の合成
  2. ソフト界面の分析
  3. ソフト界面のシミュレーション
  4. 生体材料のソフト界面
  5. ソフト界面間の相互作用
  6. 刺激応答性ソフト界面
- 現在のところ、招待講演者として Prof.

Françoise Winnik (University of Helsinki, Finland) や Prof. Steve Armes (the University of Sheffield, UK) をはじめ16名の先生方を予定しています。また、多くの著名な先生方のご講演も計画しています。

シンポジウムだけでなく登録等に関する最新の情報は、次のホームページでご確認下さい。

<https://pacifichem.org/>

<http://www.chemistry.or.jp/event/pacifichem/>

#### おわりに

ハワイというリラックスした雰囲気の中、上質な研究プレゼンテーションを数多く聞くことで、これまでにない新しい研究アイデアが生まれることと、新しい国際的な友人が沢山できることを期待しています。ポスター発表も大歓迎です。



[Pacifichem 2020, シンポジウム「Advances in Polymer-Functionalized Soft Interfaces」  
組織委員 遊佐真一 (兵庫県立大学),  
藤井秀司 (大阪工業大学),  
岩崎泰彦 (関西大学)]

© 2020 The Chemical Society of Japan